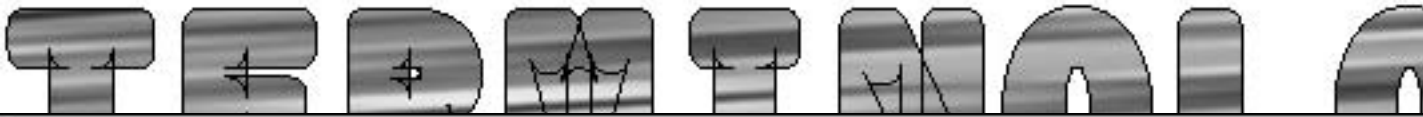


TERMINOLOGY of Internet



What's Cool【ワッツクール】

ウェブサーバーのホームページによく見られるホットスポットの1つ。ブラウザの中の「What's Cool」というボタンをクリックすると、そのサーバーが推奨する他のサーバー情報などを知ることができる。What's Coolとは「かっこいいもの」というくらいの意味であるが、クールであるかどうかはホームページを運営している人の主観による。「おすすめ」と訳されていることが多い。What's Coolと対になる言葉を探すとすればWhat's Boring(退屈なもの)になるだろう。なにがクールかというのは人それぞれだが、たとえば、ローファーvsハイヒールといった関係がそれにあたる。



電子雑誌 (electronic magazine, e-zine)

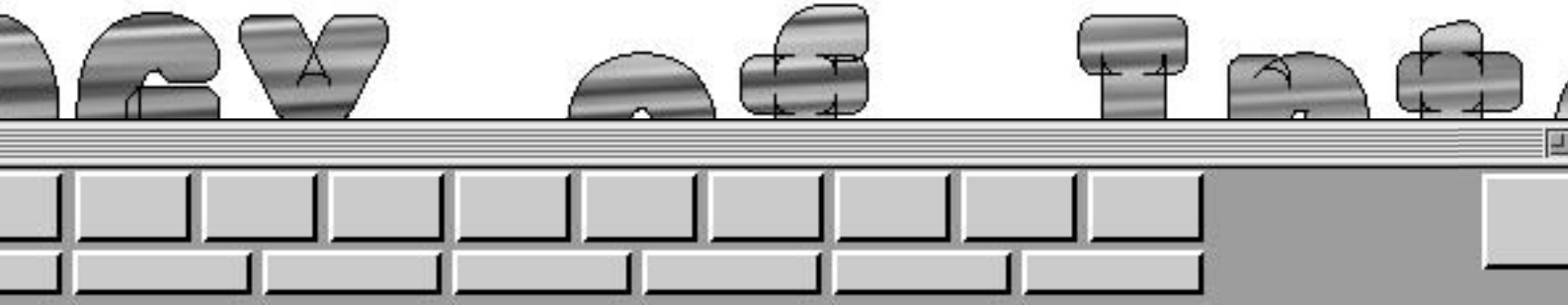
主にウェブサーバーをベースにしている定期刊行物のこと。冊子体と同じタイトルを使って連携して出版されていることが多いが、ウェブの特徴を生かして音声情報や画像情報を提供し、別の付加価値を与えているものもある。プレイボーイやハスラーといった大手の雑誌もインターネット上で出版活動を行っているため、一般にはそれらに目を奪われがちであるが、先鞭は1994年10月創刊のHOT WIRED【ホットワイアード】によってつけられた。印刷よりも経費が少なく済むため手軽に参入できること、またネットワーク上では潜在的な購読者が多数見込めることから、同人誌的なものまで含め、数多くの電子雑誌が発行されている。ウェブサーバーだけではなく、電子メールを媒体にした電子メール雑誌というものまである。e-zine【イージン】と略することが多い。同義語にオンライン雑誌 (online magazine) がある。

コンテンツ (contents)

コンテンツとは媒体に含まれている「内容」のことを指す。例えば、文章や挿し絵など書籍の内容 (コンテンツ) は冊子という媒体を受け皿として提供されているものと考えられる。目次のことを英語でTable of Contentsと表記するのはこのあたりの考え方を表していると言える。アナログ技術が主流の時代には、記事は冊子、音楽はレコード盤、映画はフィルムロールのように、コンテンツはそれぞれの表現形式に適した媒体に同梱されて、分かちがたい関係にあったが、デジタル技術の進歩によって、CD-ROMでもインターネットでもコンテンツは表現できるようになり、特定の媒体に依存するという状態は解消された。デジタル化された映画をインターネット上に用意されたブラウザで鑑賞した場合、コンテンツとしての映画と媒体としてのブラウザは完全に分離され、意識するしないにかかわらず、それぞれ独立した実体として取り扱われる。したがって、インターネットを一種の巨大な媒体あるいは流通経路とみなすと、コンテンツとは「ネットワーク上で流通するデジタル情報」のことであると、限定的にはあるが言い切ることができる。インターネットの飛躍的な普及にとともに、コンテンツについてはさまざまな立場からの発言が見られるが、単に従来のデータや情報という用語と置き換えて使われていることも多い。コンテンツ自体の意味が曖昧であること、また総称的に使用されていることが原因で混乱がみられる。映画に代表されるように、コンテンツと呼ばれるものは以前から存在していたとも言え、ネットワークを視野に入れた切り口が改めて求められていることから、現在ではコンテンツの意味づけや関係づけ、すなわちコンテキストが重要であるとの見方が始めている。コンテンツを「情報の中身」と補足的に説明していることがあるが、これに対する違和感は、「情報」をコンテナに似せた「媒体」あるいは「品質」として捉えているとの疑いから生じている。

今回は、よく見かけが意味の曖昧な用語を中心に取り上げてみました。
ご意見やご要望をお待ちしています。

E-mail to : ip-term@impress.co.jp



■ ネットサーファー (netsurfer)

ウェブサーバーのリンクを次々にたどる行為を波乗りのサーフィンになぞらえてネットサーフィンと呼び、WWWブラウザの利用方法を言い表すときによく使う。インターネットの広大な通信網を海に見立て、その空間に遊ぶある種の爽快感から生まれた言葉。転じてインターネットでサーバーを自由自在にブラウズするユーザーのことをネットサーファーと呼ぶ。アストロノーツ (宇宙飛行士) やアクアノーツ (潜水技術者) と同様にインターノーツ (Internaut) ということもある。また、インターネットを実際には利用していないにもかかわらず、うんとく 蘊蓄をかたむける人のことを「おか 陸ネットサーファー」と冗談で皮肉ることもある。

■ SOHO【ソーホー】

Small Office/Home Office【スモールオフィス / ホームオフィス】の略。小規模事務所 / 自宅事務所を意味する。米国では日本よりひと足先に大規模な人員合理化が実施されたが、その結果、自ら事業を興したり自営したりする人々の数が急速に増加した。ある調査によれば、在宅勤務も含めて何らかのかたちで自宅で仕事を持つ人は4千万人以上にのぼるものと推定されている。1993年頃から新しい市場としてもSOHOが注目され始め、コピーやファックスの機能を搭載したレーザープリンタや小規模LANシステムなど、SOHO対応のオフィス機器も投入されている。また、パソコンに代表される情報機器の高機能化と低価格化、インターネットの普及などが相まって、業務内容によっては少人数のグループや個人でも高い生産性をあげられるようになってきた。業務の外部委託を始めとした合理化、在宅を視野に入れた勤務体系の見直し、家庭を指向したライフスタイルの変化が今後も続くことが予想され、SOHOの数も着実に増加するものと見られている。

■ インターネットカフェ (Internet café)

コンピュータの端末を置き、食事やお茶を楽しみながらインターネットが体験できるようにした店舗のこと。そのため、カフェに限らずレストランなども含まれる。カフェと喫茶店とは似て非なるものではあるが、インターネット喫茶のようなものと考えてよい。1994年春に、サンフランシスコに開店したICON Byte Bar & Grill がはしりとされている。カフェとはもともとコーヒーのことを指すが、次第にコーヒーを飲ませる店という意味にも使われるようになり、ヨーロッパでは芸術家や政財界人の「サロン」として親しまれてきた。インターネットカフェはインターネットの体験ゾーンとしての性格が当初は強かったが、現在ではアーティストやミュージシャン、マルチメディアクリエイターなどが集まってインターネットについて語り合う場所として利用されるようになってきている。サイバーカフェ (cyber café) とも言う。

■ ネチズン (Netizen)

Net (ネット) と citizen (市民) を^{こんごう} 混淆して作成された言葉。単にネットワークの利用者を指すこともあるが、通常は地域ネットワークのアドレスを所有して、その地域のコミュニティに所属する人々との間で情報の伝達や交換を行っているネットワークユーザーのことを言う。ネットワークを利用して社会活動へ参加し、市民としての役割を果たすとともに、自治体や政府に対しても積極的に発言する人々が現れ始めたことで、この呼称が使われるようになった。インターネットによって世界の人々とのコミュニケーションが容易になり、そこに仮想的な市民社会が形成されているように思えることから、ネットワークに住む人をネチズンであるという意見もある。ただしこれには、隣人とのコミュニケーションが希薄であるにもかかわらず、ネットワークによる「地球村」を思い描くには想像力による飛躍が必要であり、肯定的には捉えられない側面もある。ネットワークアドレスを持つ人のことを指してネッター (Netter) と呼ぶこともある。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp